5　中学校事例①　「読むこと」の指導と評価の事例（第２学年）

（１）単元の目標

文章のおおまかな流れを時間軸に沿ってまとめ、自分の意見や考えを伝え合うために、時計が発展してきた歴史について書かれた文章の**概要を捉えることができる**。

（２）関連する学習指導要領における領域別目標

読むこと	イ　日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の**概要を捉えることができる**ようにする。

（３）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・時間の経過を表す語句の意味や働きを理解している。 ・時間の経過を表す語句の意味や働きの理解を基に、時計がどのような歴史をたどって発展してきたかを捉える技能を身に付けている。	文章のおおまかな流れを時間軸に沿ってまとめ、自分の意見や考えを伝え合うために、時計が発展してきた歴史について書かれた文章の**概要を捉えている**。	文章のおおまかな流れを時間軸に沿ってまとめ、自分の意見や考えを伝え合うために、時計が発展してきた歴史について書かれた文章の**概要を捉えようとしている**。

（４）単元で主に扱う言語材料

既習事項の復習（動詞の時制＜過去形＞、to 不定詞＜副詞としての用法＞など）

（５）単元の指導と評価の計画

※観点別学習状況の評価の観点について、表中では「知識・技能」を「知」、「思考・判断・表現」を「思」、「主体的に学習に取り組む態度」を「態」としています。 また、「記録に残す評価」の場面を「●」としています。

時	主な学習活動 ■：各時の目標（小ゴール）　丸数字（①等）：主な活動	評価の観点 知	思	態	留意点
1	■　教科書本文から**概要を読み取り**、その内容を伝えることができる。 ① 教科書本文を読む前に、どのような文章なのか推測する。 ② ジグソー法*で教科書本文を読む。各自で割り当てられた教科書本文の一部分を読んだ後、その内容を同じグループのメンバーに伝える。 ③ 学級全体で内容を確認する。教科書本文の内容を時間軸に沿ってまとめながら、**概要**（今日の時計ができるまでのおおまかな経緯）を理解する。 ④ 個人でもう一度英文全体を読み、その内容を同じグループのメンバーに伝える。	記録に残す評価は行わない。ただし、目標に即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないように十分留意する。			・単元末に実施する活動と同様の趣旨の活動（**概要を捉える**活動）に単元冒頭から取り組ませる。 ・単元を通じて**概要を捉える**活動に繰り返し取り組ませる。 ・単元の目標に即した言語活動（**捉えた概要を踏まえ**自分の考えを伝え合う活動）を設定する。
2	■　教科書本文の**概要を捉えた上で**、その内容をリテリングすることができる。 ① 教科書本文を読んで、書かれている内容を理解する。 ② 教科書本文に関する問題を解く活動を通して、**概要**（自然や既にあるものを利用して時刻を知ろうとした古代人の知恵）を把握する。 ③ 教科書本文全体から語句や表現の意味を推測する。 ④ ペアで音読を行う。 ⑤ 既習事項を活用しながら、本文の**概要**を整理して伝える（ペアでのリテリング）。				
3	■　教科書本文の**概要を捉えた上で**、その内容をリテリングすることができる。 ① 教科書本文を読んで、書かれている内容を理解する。 ② 教科書本文に関する問題を解く活動を通して、**概要**（機械式の時計が誕生してから今日までの時計の発展過程）を把握する。 ③ 教科書本文全体から語句や表現の意味を推測する。 ④ ペアで音読を行う。 ⑤ 既習事項を活用しながら、本文の**概要**を整理して伝える（ペアでのリテリング）。				
4	■　教科書本文全体で扱っているテーマについて、読むことを通じて**捉えた概要を踏まえ**、自分の考えなどを伝え合うことができる。 ① 教科書本文の内容を表にまとめ再度確認した上で、グループ内で内容を伝え合う。 ② 教科書本文全体を読んで**捉えた概要を踏まえ**、扱っているテーマ（時計の進歩の過程を通した、人間の生活と文明の発展の関係）に対する自分の考えを、理由を述べながら伝え合う。 ③ 伝え合ったことを踏まえ、自分の考えを再構築し、その内容を書く。				
後日	ペーパーテストや振り返りシートを通じて評価する。	●	●	●	

* グループのメンバーが異なるパートの英文を読み、それぞれの情報を持ち寄ることで、全体の理解を深めていく活動です。本単元では、扱う英文が説明文であり、各パートの内容が独立しているため、このような方法を用いています。

（６）評価の実際（「後日」実施したペーパーテストにおける「思考・判断・表現」の評価）

ペーパーテストにおいて「思考・判断・表現」を評価するために適切な問題を設定し、選択式の問題では正解した問題の数を基に、記述式の問題では事前に設定した採点の視点を基に評価しています。
なお、**「十分満足できる」状況を「a」、「おおむね満足できる」状況を「b」、「努力を要する」状況を「c」**としています。

○　出題した英文

教科書本文において「時計の進歩の歴史」についての英文の概要を捉えたことを踏まえ、ALT とともに作成した「自転車の進歩の歴史についての記事」を出題しました。

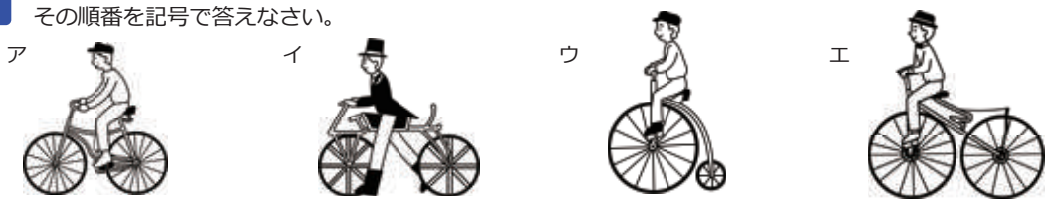
「自転車の進歩の歴史についての記事」の主な内容　※実際の英文には、これ以外の詳細な情報も加えて記述しています。

- 1817 年に、ドイツの Karl von Drais が最初の自転車を発明したが、それにはまだペダルがなかった。
- 1860 年代の初めに、フランスの発明家たちが前輪にペダルの付いた自転車をつくった。
- 1870 年代に、イギリスの James Starley が前輪を大きくした自転車をつくった。自転車レースなども行われたが、車高が高く、十分に安全とは言えないものだった。
- 1885 年に イギリスの John Kemp Starley がつくったチェーン駆動の自転車は、現在の自転車の基本になっている。
- 自転車は様々な場所を訪れる自由と、家族や友人との楽しい時間を与えてくれる。その開発者たちに感謝しよう。

○　「概要」を捉えているかをみる問題（選択式）

「自転車の進歩の歴史についての記事」において登場する自転車の特徴を、時系列に沿って整理できているかをみるため、以下のような問題をペーパーテストで出題し、評価を行いました。

問題例　次のアからエの絵は、記事の中に登場している自転車です。記事で紹介されている順に絵を並べかえ、その順番を記号で答えなさい。



評価の方法　例えば、同様の選択式の問題を４問設定し、４問中４問正解していれば**「a」**、２問又は３問正解していれば**「b」**、１問正解又は１問も正解していなかった場合は**「c」**とすることが考えられます。

○　「概要」を捉えているかをみる問題（記述式）

概要を捉えた上で自分の考えを伝えることができるかをみるため、「書くこと」の能力を問う問題にならないよう、記述させる英文の量に留意しながら、以下のような問題をペーパーテストで出題し、評価を行いました。

問題例　英語の授業で、”History of Bicycles” の記事を読んで、感想や考えを伝え合う活動をします。この記事が伝えているおおまかな内容と、その内容に関する感想や考えを相手に伝えるとしたら、どのようなことを伝えますか。その内容を英文で答えなさい。

評価の方法　生徒が記述している英文を基に、例えば、①概要を踏まえているか、②感想や自分の考えを述べているか、③相手が理解できる英語で伝えているか、という三つの視点に基づき評価することが考えられます。
なお、以下の事例では「思考・判断・表現」を「思判表」としています。

「思判表」：aの例

Bicycle history is interesting.　Karl von Drais had a great idea.　I think he is a good inventor.

▬部分で記事の概要を踏まえ、▬部分で感想や自分の考えについて、相手が十分理解できる英語で述べている。

「思判表」：bの例

Bicycle history is wonderful.　Many kinds of bicycles and interested.　The first bicycle is not pedals.

▬部分で記事の概要について、▬部分で感想について、おおむね理解できる英語（書き手の考えを伝える上で大きな支障とならない程度の誤りがあるもの）で述べている。

「思判表」：cの例

People’s ideas great.　I’m sure many people helped.
I want to be an ancient people.

▬部分で感想を述べているが、people が誰を指すか不明確である。また、▬部分では本文の概要を伝えるための適切な表現を用いていないため、伝えたい内容が理解できない。

教科書本文で扱った語句（問題の記事には登場しない。）を用いたと考えられる。

中学校「読むこと」の問題例は？

「中学校学習評価資料」**P58～62** を御覧ください。

5 中学校事例② 「話すこと［発表］」の指導と評価の事例（第２学年）

（１）単元の目標

日本に滞在している外国の人々に、身近なもの・ことの使い方・やり方を理解してもらうために、話したい内容を簡単なメモにまとめ、説明したり自分の考えを話したりするなど、**まとまりのある内容を話すことができる**。

（２）関連する学習指導要領における領域別目標

話すこと［発表］	イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて**まとまりのある内容を話すことができる**ようにする。

（３）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「主語＋動詞＋how（など）to 不定詞」、「主語＋be 動詞＋形容詞＋that で始まる節」の特徴やきまりを理解している。 ・身近なもの・ことの使い方・やり方を「主語＋動詞＋how（など）to 不定詞」を用いて説明したり、「主語＋be 動詞＋形容詞＋that で始まる節」を用いて自分の考えを話したりする技能を身に付けている。	日本に滞在している外国の人々に、身近なもの・ことの使い方・やり方を理解してもらうために、話したい内容を簡単なメモにまとめ、説明したり自分の考えを話したりするなど、**まとまりのある内容を話している**。	日本に滞在している外国の人々に、身近なもの・ことの使い方・やり方を理解してもらうために、話したい内容を簡単なメモにまとめ、説明したり自分の考えを話したりするなど、**まとまりのある内容を話そうとしている**。

（４）単元で主に扱う言語材料

「主語＋動詞＋how（など）to 不定詞」、「主語＋動詞＋間接目的語＋how（など）to 不定詞」、「主語＋be 動詞＋形容詞＋that で始まる節」

（５）単元の指導と評価の計画

※観点別学習状況の評価の観点について、表中では「知識・技能」を「知」、「思考・判断・表現」を「思」、「主体的に学習に取り組む態度」を「態」としています。また、「記録に残す評価」の場面を「●」としています。
なお、本事例では、ユニバーサルデザインを「UD」と表記しています。

時	主な学習活動 ■：各時の目標（小ゴール）　○：主な活動	評価の観点 知	思	態	留意点
1	■ 単元の目標を理解する。 ■ 身近にある UD 製品の使い方について**説明できる**。 ○ 教科書にある UD 製品について即興で**説明** → how to の理解 → メモを基に**説明**	記録に残す評価は行わない。ただし、目標に即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないように十分留意する。			・単元の第１時も含め、単元を通じて**メモを基に口頭で説明する**活動に繰り返し取り組ませる。 ・生徒が間違いを恐れて発話をためらうことのないよう、初期段階では語句で伝えることを許容する。**単元の終末に向かって文で伝えられるように**段階的に指導する。 ・説明内容の**メモを作成させる際には、キーワードのみを書かせる**ようにする。原稿にならないよう指導する。
2	■ 身近なもの（料理・スポーツで使用するもの等）の使い方について**説明できる**。 ○ 身近なものについて how to 等を用いて即興で**説明** → メモを基に**説明**				
3	■ 自分がやり方を知っている身近なこと（料理・スポーツ等）について**説明できる**。 ○ 身近なことについて how to 等を用いて即興で**説明** → メモを基に**説明**				
4	■ 身近なもの・こと（UD・スポーツ等）について自分の考えや感想を相手に**伝えることができる**。 ○ 身近なもの・ことについて、I'm sure that ～. 等を用いて自分の考え等を即興で**伝達** → メモを基に自分の考えや感想を相手に**伝達**				
5	■ 教科書本文にある登場人物の発表を参考にしながら、身近なもの・ことについて相手に**説明できる**。 ○ これまでの授業で扱った身近なもの・ことについて、メモを基に**説明**				
6	■ UD の歴史について書かれた教科書本文を読んで感じたことを、相手に**伝えることができる**。 ○ UD の歴史についての教科書本文の理解 → 教科書本文を読んで感じたことを、メモを基に**伝達**				
7	■ UD 製品について詳しく**説明できる**。 ○ 第１時で扱った UD 製品について、これまでに作成したメモを基に改めて**説明**				
8	■ 身近な UD（製品、施設）について調べる（発表準備）。 ○ 身近な UD（製品、施設）を調べ、興味をもったものについて説明内容のメモを作成 → タブレット端末を使って発表用スライドを作成				
9	■ 身近な UD（製品、施設）について、プレゼンテーション形式で**説明できる**。 ○ 前時で作成のスライドを用いてペアで**説明** → ４人グループをつくり相互に**発表**	●	●	●	
後日	パフォーマンステスト（プレゼンテーション形式での発表）を通じて評価する。	●	●	●	

（６）評価の実際（「後日」実施したパフォーマンステストにおける「思考・判断・表現」の評価）

「後日」実施したパフォーマンステストにおいて、下の評価基準表に基づき、「思考・判断・表現」を評価しています（本パフォーマンステストでは「知識・技能」についても別途評価基準を設定し、同時に評価しています。また、「主体的に学習に取り組む態度」については、基本的に「思考・判断・表現」と一体的に評価します。）。
なお、**「十分満足できる」状況を「a」、「おおむね満足できる」状況を「b」、「努力を要する」状況を「c」**としています。

○　パフォーマンステストにおける場面設定

教科書本文で、UD の展示会を訪れた登場人物が会場のスタッフから UD 製品について説明を受ける場面を学習したことを踏まえ、パフォーマンステストにおいて次のような場面設定を行いました。

地域に住む外国の人々に向けた UD の展示会で、UD 製品等の特徴や、その製品等について自分が考えたことなどについて来場者に理解してもらえるように、メモを基に英語でプレゼンテーションを行う。

○　パフォーマンステストで使用した評価基準表の例

各自が調べた UD 製品等について、メモを作成した上でプレゼンテーションを行いました。その際、以下の評価基準表に基づき、**６点を「a」、４点・５点を「b」、３点以下を「c」**として評価しています。

	得点	視点①　話題に沿った内容	視点②　内容の構成
思考・判断・表現	３点	UD（製品、施設）の機能や目的について具体例を挙げながら詳細に説明している。自分の考えや感想と、そのように思う理由について明確に述べている。	接続詞等のつなぎ言葉を使用することで、十分に文と文のつながりがある説明をしている。
	２点	UD（製品、施設）の機能や目的についておおまかに説明しているが、情報が足りないところがある。自分の考えや感想について述べているが、そのように思う理由が述べられていない。	一部つなぎ言葉を使用することで、文と文のつながりがある説明をしている。
	１点	UD（製品、施設）の機能や目的について十分に説明しておらず、情報が不足している。自分の考えや感想を述べていない。	文と文のつながりがほとんどない説明になっている。

○　生徒の発表内容等に基づく評価

評価の方法　上記評価基準表に基づき、生徒がメモを基に口頭で発表した内容・構成を、以下のように評価することが考えられます。

なお、以下の事例では「思考・判断・表現」を「思判表」としています。

「思判表」：a の例

Hello, everyone.　I'm going to talk about universal design.　Look at this picture.（以下の○○には消しゴムの商品名が入る。）
This is ○○.　○○ is universal design product.　It's easy for people to erase with ○○ because it has a ten cubes.　Thanks to the corner, we can erase easily.　We don't need much power.　○○ is made for elderly and children.　○○ have many colors, white, blue, pink, etc. I think white color is most popular.　And ○○ have many size, big size, regular size and small size.　It's interesting.　It is also cheap. We can buy ○○.　I'm sure that ○○ can help a lot of people. That's all.　Thank you.

具体例と詳細な情報を含み、接続詞等のつなぎ言葉を用いて十分につながりのある文章で発表しているので、視点①、②をともに3点としている。　**［合計６点］**

―などに、単数・複数の区別、冠詞、動詞の変化に関する軽微な誤りが見られるが、視点①、視点②の評価に影響はないものと判断している。【正確さについては「知識・技能」で別途評価】

「思判表」：b の例

Hello, everyone.　I'm going to talk about universal design.　Look at this picture.（以下の◇◇にはカッターの商品名が入る。）
This is ◇◇.　◇◇ is easy to hold.　The blade of the cutter rotate. I think easy to paper cut.　Paper cut when pushes and pull.　I think ◇◇ is very useful.　It has many colors.　Please buy it. That's all.　Thank you for listening.

つながりのある文章で説明しているが、情報や自分の感想の理由を十分に伝えられていないため、視点①、②をともに２点としている。
［合計４点］

―では、You can cut paper when you push the button on ◇◇ and just move ◇◇.
It's very easy to cut paper with it. 等の内容が意図されていたと考えられるが、内容が十分に伝わっていない。

「思判表」：c の例

Hello, everyone.　Do you know universal design?　Look at this picture.（２Ｌのペットボトルの写真を使って説明を始めている。）It's... look...えーと... this easy hold.　This is... because it's has a sharp is a example of universal design.　People can bring heavy it with three fingers.　You can use this. It's allows help the... people with... えーと, that's all.

UDの機能や目的を十分に説明できていない。情報や文同士のつながりが不足しているため、視点①、②をともに１点としている。
［合計２点］

5　中学校事例③　「書くこと」の指導と評価の事例（第１学年）

（１）単元の目標

おすすめの旅行先を友達に伝えるために、その国や場所の特徴、そこで楽しめることなどについて、**まとまりのある文章を書くことができる**。

（２）関連する学習指導要領における領域別目標

書くこと	イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて**まとまりのある文章を書くことができる**ようにする。

（３）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「There＋be 動詞＋～」や How を用いた疑問文の特徴やきまりを理解している。 ・おすすめの旅行先の特徴やそこで楽しめることなどについて、「There＋be 動詞＋～」を用いて書く技能を身に付けている。	おすすめの旅行先を友達に伝えるために、その国や場所の特徴、そこで楽しめることなどについて、**まとまりのある文章を書いている**。	おすすめの旅行先を友達に伝えるために、その国や場所の特徴、そこで楽しめることなどについて、**まとまりのある文章を書こうとしている**。

（４）単元で主に扱う言語材料

「There＋be 動詞＋～」、How を用いた疑問文

（５）単元の指導と評価の計画

※観点別学習状況の評価の観点について、表中では「知識・技能」を「知」、「思考・判断・表現」を「思」、「主体的に学習に取り組む態度」を「態」としています。また、「記録に残す評価」の場面を「●」としています。

時	主な学習活動 ■：各時の目標（小ゴール）　丸数字（①等）：主な活動	評価の観点 知	思	態	留意点
1	■ 単元の目標を理解する。 ■ 身近な場所の紹介文を**３文程度で書くことができる**。 ■ 「There+be 動詞+～」の特徴やきまりが分かる。 ① 外国の友達からのビデオレター（１通目）を視聴する（単元の目標を理解する。）。 ② 様々な国の紹介文を聞き取る。 ③「There+be 動詞+～」を理解し、それを用いて指示された場所について述べる。 ④ モデル文を参考に地域のおすすめの場所の紹介文を**３文程度で書く**。[Controlled Writing]	記録に残す評価は行わない。ただし、目標に即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないように十分留意する。			・単元のゴールに向けて、単元を通して指導する。各時で**「書くこと」**の活動を行い、**Controlled Writing** から **Free Writing** へと段階的に質を高めていく。 ・一貫して「旅行先を紹介する」というトピックを扱い、**そのトピックで英文を書く**ための様々な表現を指導する。 ・単元の前半では、言語活動を通して知識・技能を活用させ、その定着を図る。単元の後半では、身に付けた既習事項を活用させ、**「書くこと」における自己表現**につなげる。
2	■ 国内の様々な場所の情報について、やり取りをすることができる。 ① モデルとなるやり取りを聞く。 ② How を用いた疑問文を理解し、本時で学習する表現や既習事項を用いて、国内の様々な場所について口頭でやり取りをする。 ③ 第１時に書いた紹介文に**追加情報を書き加え、内容を改善する**。[Controlled Writing]				
3	■ 教科書本文で使われている表現を参考にしながら、世界遺産について**書くことができる**。 ① 教科書本文を聞いたり読んだりして、内容を理解する。 ② 教科書本文の表現を参考にしたり、既習事項を用いたりしながら、オーストラリアの世界遺産について**２、３文程度で書く**。[Controlled/Free Writing]				
4	■ 教科書本文で使われている表現を参考にしながら、旅行先で楽しめることについて**書くことができる**。 ① 教科書本文を聞いたり読んだりして、内容を理解する。 ② 教科書本文の表現を参考にしたり、既習事項を用いたりしながら、オーストラリアで楽しめることについて**２、３文程度で書く**。[Controlled/Free Writing]				
5・6	■ 友達にすすめたい旅行先について、その国や場所の特徴、そこで楽しめることなどについて、**まとまりのある文章を書くことができる**。 ① 外国の友達からのビデオレター（２通目）を視聴して、旅行先についての希望など、追加の情報を理解する。 ② 友達にすすめたい旅行先について調べ、既習事項を用いて**まとまりのある文章を書く**。 ③ 書いたものを互いに読み合い、内容を改善する。 ④ 写真やイラストを効果的に活用しながら、タブレット端末を使って**自分が書いた文章を入力**し、提出する。[Free Writing]	●	●	●	
後日	ペーパーテスト（おすすめの旅行先について、まとまりのある文章で返事のメールを書く。その際、友達が希望する内容などの条件を授業で扱ったものと変える。）を通じて評価する。[Free Writing]	●	●	●	

（６）評価の実際（「第５・６時」に実施した言語活動における３観点の一体的な評価）

単元末に実施した言語活動において、下の評価基準表に基づき、３観点を一体的に評価しています。
なお、**「十分満足できる」状況を「a」、「おおむね満足できる」状況を「b」、「努力を要する」状況を「c」**としています。

○　生徒に示したビデオレターの内容（コミュニケーションの目的や場面、状況など）

外国の友達（Ben）が送ってきたビデオレター（１通目及び２通目）の内容に応じて、返事のメールを書く活動を設定しました。Ben が送ってきたビデオレターの主な内容は以下のとおりです。

ビデオレターで Ben が伝えた主な内容　※実際のビデオレターでは、文字で内容を示さず、音声で以下の内容を伝えています。

- 冬休みに家族４人で３日間の海外旅行を考えている。おすすめの旅行先をメールで教えてほしい。
- 父は歴史好きで歴史の本をよく読んでいる。母は美しい自然を眺めることが好き。
- 妹は 10 歳で、おいしい食べ物を食べることが好き。自分はスポーツをすることや見ることが好き。
- 自分たち家族におすすめの国や場所を教えてくれたらうれしい。

○　生徒が書いた返事のメールを評価する際に使用した評価基準表の例

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で書いている。 ※難しい語の綴りや未習事項の誤りは許容する。	詳しい情報を追加しながら、【三つの条件】を満たして書いている。	詳しい情報を追加しながら、【三つの条件】を満たして書こうとしている。
b	コミュニケーションに支障のない程度の誤りが少し見られる。	【三つの条件】を満たして書いている。	【三つの条件】を満たして書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「思考・判断・表現」の【三つの条件】　※これらの条件については単元を通じて指導しています。
条件１：友達の希望を踏まえて、おすすめの旅行先の特徴やそこで楽しめることなどについての情報を書いている。
条件２：おすすめの旅行先について、三つ以上の情報を書いている。
条件３：自然なつながりのある分かりやすい構成で書いている。

○　生徒が書いた返事のメールの内容に基づく評価

評価の方法　上記評価基準表に基づき、生徒が記述した返事のメールを以下のように評価することが考えられます。なお、以下の事例では「知識・技能」を「知技」、「思考・判断・表現」を「思判表」、「主体的に学習に取り組む態度」を「態度」としています。

「知技」：a、「思判表」：a、「態度」：a の例

Hello, Ben!　I recommend China.
You can go there by plane.　There is a very famous wall in China.　It's Great Wall.　It's a World Heritage Site.　China is famous for sports.　Running is especially popular.　And you can enjoy Chinese food.
Have a nice trip!

誤りのない正しい英文で、**【三つの条件】**を満たしつつ、▬部分で詳しい情報を追加しているため、「知技」及び「思判表」を「a」としている。また、**「態度」は「思判表」と一体的に評価する**ため、「a」としている。
※以下の例でも同様

「知技」：b、「思判表」：b、「態度」：b の例

Hello, Ben!　I recommend Inokashira Park in Japan.
It's very famous park.　There are a lots of animal, food and athletics. You can also see the history of Inokashira Park.　Please go!

▬部分に、冠詞の a の欠落や単数・複数の誤りがあるため、「知技」を「b」としている。また、**【三つの条件】**を満たしているため、「思判表」を「b」としている。

「知技」：c、「思判表」：c、「態度」：c の例

Hello Ben.　I recommend Kyoto.
It's delicious local food.　There is kinkakuji.　It's historical and it beautiful nature.

▬部分では、It が指し示す内容が不明確で、動詞の使用にも誤りがある。また、▬部分では表記の誤りがあるなど、正しい英語で書かれていないため「知技」を「c」としている。二つの話題（食べ物と金閣寺）を扱い、金閣寺については最後の一文で情報を追加しているものの、**【三つの条件】**のうち**条件３**を満たしているとは言えず、メール文としても唐突な終わり方であるため、「思判表」を「c」としている。

例えば、この言語活動の振り返りで「よく分からない時はとにかく It's で文を作っていました。次からは It の意味を考えて、英文を書きたいです。」という自己調整に関わる記述があり、この振り返りで記述した内容が、授業での言語活動の取組に実際に表れていれば、「思判表」と一体的に評価して「c」とした「態度」を、「b」と総括することも考えられます。

➡本資料 P15「ポイント３」参照

中学校「書くこと」の問題例は？

「中学校学習評価資料」**P73～76** を御覧ください。

6 小学校事例 「話すこと［やり取り］」の指導と評価の事例（第５学年）

（１）単元の目標

町にやって来た外国の人々に道案内をするために、色々な施設の名前や、道案内の表現などを用いて**伝え合うことができる**。

（２）関連する学習指導要領における領域別目標

話すこと［やり取り］	ウ　自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、**伝え合うことができる**ようにする。

（３）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・色々な施設の名前や、Where is ~?　Go straight.　Turn right/left.　It's by/in/on/under ~.　You can see it on your right/left. の表現について理解している。 ・色々な施設の名前や、Where is ~?　Go straight.　Turn right/left.　It's by/in/on/under ~.　You can see it on your right/left. 等を用いて、考えなどを伝え合う技能を身に付けている。	町にやって来た外国の人々に道案内をするために、色々な施設の名前や、道案内の表現などを用いて、お互いの考えなどを**伝え合っている**。	町にやって来た外国の人々に道案内をするために、色々な施設の名前や、道案内の表現などを用いて、お互いの考えなどを**伝え合おうとしている**。

（４）単元で主に扱う言語材料

施設の名前（library, museum, department store, castle, amusement park 等）、道案内の表現（Where is ~? Go straight.　Turn right/left.　You can see it on your right/left.）、場所を表す表現（It's by/in/on/under ~.）

（５）単元の指導と評価の計画

※観点別学習状況の評価の観点について、表中では「知識・技能」を「知」、「思考・判断・表現」を「思」、「主体的に学習に取り組む態度」を「態」としています。また、「記録に残す評価」の場面を「●」としています。

時	主な学習活動 ■：各時の目標（小ゴール）　丸数字（①等）：主な活動	評価の観点 知	思	態	留意点
1	■ 単元の目標を理解する。 ■ 道案内をするために必要な語彙や表現について理解する。 ① 道案内をするためにどのような表現が必要か考える。 ② 実際の道案内の場面を見る（教師と ALT による実演）。 ③ ポインティングゲームで施設の名前、チャンツで道案内の表現を練習する。	記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。			・単元の前半では、チャンツやゲームなどを通じて**繰り返し練習**させ、必要な**語彙や表現の定着**を図る。
2	■ 色々な施設の名前を聞いたり言ったりすることができる。 ① チャンツで施設の名前を復習する。 ② ミッシングゲーム、キーワードゲームで施設の名前を練習する。 ③ 地図を使って施設がどこにあるかを尋ねたり、その場所を指し示したりする。				
3	■ 道案内の表現を用いて、地図を使った道案内（**やり取り**）をすることができる。 ① チャンツで道案内の表現を復習する。 ② フェイントゲームで道案内の表現を練習する。 ③ 道案内（**やり取り**）を行う。				・第３時から少しずつやり取りの場面を設定し、**繰り返しやり取りの活動**に取り組ませる。
4	■ 探し物が部屋のどこにあるのかを尋ねたり答えたりして**伝え合うことができる**。 ① 音声を聞いて、探し物が部屋のどこにあるのか聞き取る。 ② コマンドゲームで場所を表す表現を練習する。 ③ 探し物が部屋のどこにあるのかを尋ねたり答えたりして**伝え合う**。				
5	■ 既習事項（施設の名前、道案内の表現、場所を表す表現）を用いて、地図を使った道案内（**やり取り**）をすることができる。 ① 第１時～第３時で扱った地図を使って、既習事項を復習する。 ② 第１時～第３時で扱った地図とは異なる地図を使って、道案内（**やり取り**）を行う。	●			・第５時で場所を表す表現、第７時で自分の町にあったらよい施設とその理由を順に追加し、**やり取りで使える表現や内容を少しずつ広げて**いく。
6	■ 自分の町（オリジナルタウン）にあったらよいと思う施設とその理由を考え、相手と**伝え合うことができる**。 ① Small Talk（What do you want for your town?）を行い、あったらよい施設とその理由について**伝え合う**。 ② Small Talk の内容を基に、自分の町にあったらよい施設のカードを作成する。 ③ 作成したカードを地図に配置し、そこまでの道案内（**やり取り**）を練習する。	第７時[*1]の言語活動に向けて、児童の取組状況を把握する。			
7	■ 自分の町（オリジナルタウン）で道案内をするために、既習事項（施設の名前、道案内の表現、場所を表す表現）を用いて**伝え合うことができる**。 ① 教室を実際の町（オリジナルタウン）に見立て、道案内（**やり取り**）を行う。	（●）[*2]	●	●	

＊1 詳細は右ページ（6）参照
＊2 第５時の「記録に残す評価」の場面で「c」と評価した児童がいた場合は、指導・支援を継続し、第７時にその改善状況を見取る機会を設定することも考えられます。

（６）「思考・判断・表現」における児童の取組状況の見取り

「思考・判断・表現」については、単元の評価規準に基づき第６時にその取組状況を見取り、必要な指導・支援を行ってから第７時に記録に残す評価を行っています。「主体的に学習に取り組む態度」については、基本的に「思考・判断・表現」と一体的に評価します。また、「知識・技能」については、主に第５時（必要に応じて第７時）の言語活動で評価しています。
なお、本事例では**「十分満足できる」状況を「a」、「おおむね満足できる」状況を「b」、「努力を要する」状況を「c」**としています。

○　第６時③の言語活動における見取りの時点では、「思考・判断・表現」に課題が見られた児童への指導・支援の例

Where is the toy store?

Go straight.　And, えーと…　Turn… turn…
Oh, turn left at… at… third…　Corner…
Yes, third corner.　なんだっけ…
あ, You can see on your right.

Thank you!

道案内をするために、施設の名前や道案内の表現など既習事項を用いて伝えようとしているが、教師の支援によって道案内を行う様子があるなど、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて話すことに課題が見られるため、第７時終了時点では「b」となるよう、指導・支援を継続する。

※上の例では、相手の児童の発話を［　　］で表し、道案内をしている児童を支援する教師の発話を［　　］で表しています。第７時では、この児童が［　　］なしで道案内できる（「b」になる）ことを目指します。

この例のような児童が見られた場合には、個別のつまずきに応じた**指導・支援**を行うとともに、学級全体に対しても、**中間指導**を通じて必要な語彙や表現をもう一度**確認**したり、多く見られた誤りを全体で**共有**したりすることが大切です。また、よい取組を**共有**したり、そのよさに**気付かせ**たりすることで、児童の発話内容を豊かにしていくことができます。

（７）評価の実際（「第７時」に実施した言語活動における「思考・判断・表現」の評価）

○　児童に示したコミュニケーションの目的や場面、状況など

教室をオリジナルタウンに見立てて道案内に取り組ませました。その際、児童の机上には、教科書で扱っている施設が描かれたカードとともに、第６時に作成した「自分の町にあったらよい施設のカード」を配置しています。

活動の前に児童に伝えた内容

- オリジナルタウンに外国の人たちがやって来ました。その人たちが行きたい場所まで道案内をしましょう。
- 「道案内をする人」「道を尋ねる人」「ヒントを出す人（やり取りを観察する人）」の３人一組で活動します。
- 「道案内をする人」は、これまでに学習した表現を使って、「道を尋ねる人」が行きたい場所まで、実際の町や地図を見ながら案内をします。「ヒントを出す人」は、困っている人がいたら、使える表現などを教えてあげましょう。
- 「道案内をする人」は、ヒントをもらわずに最後まで道案内ができるように、時間内で何度も挑戦しましょう。

○　児童の発話内容に基づく評価

評価の方法　単元の評価規準に基づき、道案内の際に、「道案内をする人」の役割を務めている児童が発話した内容を、以下のように評価することが考えられます。
なお、以下の事例では「思考・判断・表現」を「思判表」としています。

「a」の姿や「b」の姿について、**事前に児童と共有しておく**ことが大切です。

※以下の例では、「道を尋ねる人」の発言を［　　］で表しています。

「思判表」：a の例

Where is the soccer stadium?

Oh, soccer stadium?　Do you like soccer?

Yes, I do.

OK.　Go straight.　Turn right at the fourth corner.　Fourth corner.　And you can see it on your left.

… left?

Yes, on your left.　It's by the Chuo Park.
Have a nice day!

Thank you!

外国の人々に道案内をするために、施設の名前や道案内の表現などの既習事項を用いている。その上で、▬部分で相手の行きたい場所を復唱したり、相手の興味を尋ねるような質問をしたりするとともに、▬部分では、相手の反応を見ながら、理解が十分でなさそうなときには大切な部分を繰り返しているため、「思判表」を「a」としている。また、**「主体的に学習に取り組む態度」は「思判表」と一体的に評価できる**ため、「a」としている。　※以下の例でも同様

「思判表」：b の例

Where is the aquarium?

OK.　Go straight two blocks.　Turn left.
You can see aquarium on your left.　It's by the library.　Have a nice day!

Thank you!

▬部分では、道案内の表現に前置詞の「for」の欠落があるが、外国の人々に道案内をするために、施設の名前や道案内の表現などの既習事項を用いているため、「思判表」を「b」としている（欠落は「思判表」の評価に影響ないと判断）。

▬部分では冠詞の「the」が欠落しているが、これは「文法事項」と捉え評価の対象とはしていない。ただし、誤りをそのままにするのではなく、指導者が You can see **the** aquarium on your left. のように正しい形を繰り返し、児童がその違いに気付けるように、指導を継続することが大切である。【前置詞の「for」の欠落など、道案内の表現における正確さについては「知識・技能」で別途評価】

小学校「話すこと［やり取り］」の評価例は？

「小学校学習評価資料」**P54～57** を御覧ください。